

障害児支援のファイルを作成 福井の団体、無料配布へ



「にこにこクラブSUNFISH」が作ったライフサポートファイル
「クローバー」と災害時手帳「らいと」=福井市のハピリンで

福井市などの発達障害や知的障害のある人の保護者や支援者でつくる団体「にこにこクラブSUNFISH」は、成長の過程や生活の様子を記録するライフサポートファイルと災害時手帳を作った。「成長した子供が親と離れた時も、自分の望む生活をしてほしい」。メンバーで自閉症の子供を持つ母親のこんな思いに他のメンバーも共感し、一年近くをかけて作り上げた。

ライフサポートファイル「クローバー」はA4判で三十九ページのファイルとし。医療情報、障害の種類や程度などの福祉情報を記入するほか、意思疎通ができる方法を書き込むページなどもあり、必要な部分を選んで使う。

災害時手帳「らいと」はA6判で二十六ページ。医療情報などをライフサポートファイルから転記するほか、避難先で周囲の人と意思疎通する助けになるよう、欲しい食べ物や体調などを指をさして伝えることのできるイラスト一覧のページも設けた。

にこにこクラブは、知的障害や発達障害のある人のための水泳教室や障害者への理解を深めてもらうための講演会などを開いている。大人のメンバー十人ほどで昨年八月から構想を始め、メンバーの子供が通う特別支援学校の教師らのアドバイスも受けながら、今年三月に完成させた。

こだわったのは「本人の視点」。会長の市岡公子さん（55）によると、ライフサポートファイルは自治体なども製作しているが、家族や支援者が医療や福祉情報の引き継ぎのために記入するタイプが多いという。「本人自身も生活の様子を残すことで、将来、自分がやりたいことを選ぶ手掛かりにしてほしい」との思いから、思い出の写真を貼ったり、買い物の記録を書き込んだりするページも作った。

内容が分かりやすくなるよう言葉遣いやイラストにも気を配った。言葉遣いは「支援の必要なこと」ではなく「てだすけてほしいこと」などのように、本人の視点に立った分かりやすい表現を徹底した。災害時手帳のイラストは、避難所などの状況に適した絵をインターネットのフリー素材から探すため、一つのイラストを選ぶのに二、三時間かかったこともあったという。

市岡さんは「日頃から使ってもらい、障害のある人が一人で生活するようになったり、災害時に保護者と離れ離れになったりした時、少しでも自分らしく生活できる助けになれば」と願っている。

ライフサポートファイルを千五百冊、災害時手帳を千冊、希望者に無料配布する予定。ハピリン内の市総合ボランティアセンターや福井口腔（こうくう）保健センター（福井市大願寺三）などで受け取れる。

（問）にこにこクラブSUNFISH = nikoniko.sunfish@gmail.com（片岡典子）

県内の障害児の母親らでつくる「こころクラブSUNFIS」は、主に発達障害や知的障害がある子ども向けの「ライフサポートファイル」と「災害時手帳」に望む配慮を書き込む。イラストを多用し、写真や絵を貼るページを設けて、本人が楽しんで記入できるように工夫した。ファイルを活用することで、障害者が一人暮らしを始めたり、保護者が病気で育児に関われなくなったりしたとき、福祉サービス事業所や学校に情報を正確かつスムーズに伝えられる。また

発達障害支援スムーズに

を作製した。障害の特性や必要な薬、かかりつけ医などを記録し、成長とともに学校や支援機関が変わったときに相手に分かりやすく伝えたり、災害時にサポートを受けられやすくしたりする。

ライフサポートファイル「クローバー」はA4判で39ページ。障害児の家族構成や緊急連絡先といった基本情報をはじめ、1週間の過ごし方や得意なこと、「不安な時やパニック時にはこうすれば安心します」など周りの人



障害者のためのライフサポートファイルや災害時手帳をPRするボード＝福井市のハビリン内の市総合ボランティアセンター

県内の母親団体

連絡先や病名…記録帳を作製

将来、障害者年金などの申請時に有力な資料にもなるという。部「らいと」は1千部作製。福井市のハビリン内の市総合ボランティアセンター、県共同募金会、福井口腔保健センター（ともに同市に置き、無料で配る。県内の特別支援学校の協力を得て、全児童生徒に届けたいという。「水は出ません」などイラストクラブ代表の市岡公子さんを指し示して、コミュニケーション

災害時にも活用

2016年の熊本地震では、発達障害の人が避難所を敬遠したり、炊き出しの行列に並べなかつたりして、ストレスで健康を損なうケースもあった。手帳の活用によって、誰もが安心して避難生活ができる手助けにしたいという。赤い羽根共同募金の助成を受

害者本人が自身で考え、記入してほしい。幼いときから自分のことが自分で決めるという積み重ねが将来の仕事や生活につながる。「自分がしたい暮らし」を支える冊子になればと話している。問い合わせは、同クラブのメールアドレス nikoniko.sunfi@sh@gmail.com (宇野和宏)